

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年6月29日

【評価実施概要】

事業所番号	0176400273		
法人名	株式会社 萌福祉サービス		
事業所名	グループホーム もえ～る		
所在地	北海道留萌市栄町1丁目1番1号 (電話) 0164-49-5222		
評価機関名	タンジェント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成19年6月27日	評価確定日	平成19年7月9日

【情報提供票より】(平成19年 6月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年 8月 6日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 14人, 非常勤 6人, 常勤換算	11.7人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨耐火構造	造り
	3階建ての	2～3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	8,000 円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	210 円	昼食	263 円
	夕食	364 円	おやつ	105 円
	または1日当たり	924 円		

(4) 利用者の概要(6月1日現在)

利用者人数	16名	男性	3名	女性	13名
要介護1	1名	要介護2	1名		
要介護3	8名	要介護4	4名		
要介護5	2名	要支援2			
年齢	平均 83.95歳	最低	64歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	川上内科医院 寺西歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

留萌駅前に3階建ての1階部分はデイサービスで、2・3階部分がグループホームという立地条件と交通の利便性に優れた中に設立されたグループホームである。共用空間には、利用者が集い談笑したり趣味など楽しみ和やかな雰囲気が感じられ安心して過ごせる場となっている。管理者の「笑顔と元気を提供する」「利用者の思いや気持ちになって」の思いで職員も皆明るく元気で、それぞれが自分の目標をしっかりと持ちケアサービスの質の向上の取り組んでいる様子が伺えた。また、月一度職員が駅周辺の清掃ボランティアを自主的に行い地域貢献していると共に駅広場での祭りや盆踊りに参加するなど地域の人達との交流も行われている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価では、運営理念に年間目標を追加することが望ましいとの改善点があげられていましたが、従前からホームの年間目標は有り、その達成度も評価され職員間で共有されていることが確認できました。また、P-D-C-Aのサイクルが運営向上委員会の活動で改善に活かされています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は、職員が参加して行われケアサービスの質の向上に利用されています。また、管理者、職員は評価の意義を理解して改善の機会として捉えています。また、外部評価の結果については運営推進会議で報告され運営に反映されるよう取り組まれています。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は、評価日現在1回実施されています。主題については平成19年度の年間目標と行事予定について 事故報告について 利用者の状況について 外部評価結果について 次回開催の運営推進会議の要望や取り組みについて
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 「もえからのお手紙」を毎月発行して利用者の日常の暮らしぶりやホーム行事参加の様子、職員の紹介など家族に写真と共に情報提供したり金銭管理簿のコピーを添付して報告していることが確認されました。今後は「もえからのお手紙」に職員の専門家として持っている知識を「認知症に対する理解や広報」に活かす取り組みが計画されています。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 職員の月一度の駅周辺の清掃活動での地域貢献や祭りや盆踊りなどの地域の行事の参加を通じて地域の人達との交流が行われています。また、運営推進会議を通じて行政・包括支援センターと共にケアサービスの質の向上に取り組み、買い物など日常生活を通じて地域との連携に取り組んでいます。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	経営理念をもとに、介護理念及びグループホーム独自の年間目標をつくりあげ、その人らしく暮らし続けることを職員で互いに確認し合い職員間で共有されている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員は理念の重要性を理解して、介助理念を達成するために具体的な個々の年間目標を掲げその達成度について話し合わせフォローアップされている。P-D-C-Aのサイクルが機能する仕組みが整っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	駅前の清掃のボランティアや祭りや盆踊りなどの地域の行事に参加したり、認知症に対する理解や広報の為に運営推進会議で行政や地域とケアサービスの質の向上に取り組み地元の人々との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は自己評価及び外部評価を実施する意義を良く理解しており、それらを活かす取り組みが運営向上委員会を通じて行われている。また、外部評価結果についても運営推進会議に於いて報告され評価を活かす具体的な改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議については評価日現在1回開催されている。メンバーは家族、行政、地域包括支援センター、管理者・職員で構成され「サービス評価と運営推進会議を活かして」について具体的に取組んでいる。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>事業所は、市と運営推進会議の議事についての相談や連携について共に取組んでいる。また、それらをケアサービスの質の向上に活かしている。</p>		
<p>4. 理念を実践するための体制</p>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>「もえからのおてがみ」を毎月発行して、利用者の日常の暮らしぶりや健康状態、行事予定、近況報告などそれぞれの家族に報告されている。また、状態変化については都度電話連絡などで詳細に報告している。</p>		<p>今後は、「もえからのおてがみ」で家族等に認知症に対する理解や広報のための取り組みを記載していく検討がされている。</p>
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議で家族に報告して意見を聞く機会を作ったり、来訪時には気軽に話せる雰囲気や苦情相談窓口を明確にして気軽に意見や苦情・相談ができる環境整備に心掛けそれらを運営に反映させている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>管理者は職員の移動などで利用者に影響を与えないように配慮する取り組みをしている。</p>		<p>「もえからのおてがみ」で職員の紹介をするなど、さらなる取り組みを検討している。</p>

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者は、職員を段階的に社内研修や医療法人での介護・看護の研修を実施するなどしている。また、職場内研修は毎月テーマ毎に実施され職員を育てる取り組みがされている。また、テーマを決めて職員が自己啓発した内容を発表する機会を設定している。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>ヘルパー実習の受入れや市主催の研修会参加、同一グループ内での研修でケアサービスの質の向上に努めている。</p>		<p>今後は、同一法人外のグループホームとの交流の機会も検討されている。</p>
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人が、安心して納得したサービスが受けられるように入居前には、利用者・家族の見学などで不安を解消する取り組みや、場の雰囲気に馴染めるよう相談しながら工夫している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>アセスメントに基づいて、利用者の生活歴を把握して調理の手伝いや漬物漬け、貼り絵などの趣味への支援や本人の気持ちになった支えあう関係を築いている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントに基づいて、散歩や買い物など外出の機会を多く作ったり食器洗いや歌唱、嚥下体操、音楽療法への参加などの趣味への支援や本人の希望・意向を尊重した取り組みがされている。		センター方式で生活歴の把握や介護計画について、今後研修をして協議していく意向が示されている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護支援専門員の適切な管理のもとに利用者、家族の希望や医師からの助言・情報や職員からの意見を取り入れ具体的な介護計画となっている。		介護記録は充実して具体的に記録されているが、さらに改善して簡素化していく計画がある。
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画書に記載している個別の期間を目安に評価を行い、3ヶ月に一度計画的に見直しが行われている。また、利用者・家族の要望や利用者の状態変化に応じて期間終了前であっても都度、現状に即した介護計画の見直しが行われています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況、その時々々の通院や入浴など散歩や買い物など要望のある場合には柔軟に支援を行っている。また、嚥下体操、音楽療法への参加や同一施設内のデイサービス訪問など時々々の要望にも対応されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>利用者それぞれの主治医との連携で気軽に相談できる医師が確保されている。また、利用者、家族の希望や要望に応じて状態変化などについても医師・歯科医師の往診など適切な医療が受けられるよう支援されている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>医師と連携して利用者・家族と相談ながら慎重に検討対応するよう職員間で共有される取り組みがされている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した声かけや記録等の個人情報の扱いについては、個人情報保護法に対応した配慮がされた取り組みが行われている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者一人ひとりの希望やペースに沿って散歩、買い物や編み物、塗り絵、輪投げやボーリングなどのレクリエーションが支援されている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の希望や力量に応じて、職員と利用者が一緒になって楽しんで、うどんの麺うちなどの食事の準備や後片付けをしている。また、希望に応じてピザやハンバーガーなどの出前で食事を楽しむ機会も提供されている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は週3回と基本的に決めているが利用者の希望に応じて対応している。また、デイサービスの大きな浴槽も利用できゆっくりとくつろいで入浴が楽しめるように支援されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	アセスメントで生活歴が把握され編み物、雑巾縫い、塗り絵などの趣味や出張販売のパン屋さん、病院の売店での金銭を使う場面を見出したりする支援がされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材などの買い物、散歩、花見のドライブなど気分転換や心身のリフレッシュができるように戸外にでかけられるように支援されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は、鍵をかけないケアに取り組んでいる。また、利用者の外出傾向も職員間で把握され取り組まれています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火管理者が配置され、緊急時に全ての職員が速やかに対応ができるように利用者と共に実技を伴う火災避難訓練が年2回、救急救命訓練が実施されている。また、消火器の使用の訓練も実施されている。		今後は、近隣の住民も参加した火災避難訓練を実施して日頃より協力が得られる働きかけを行う計画がされています。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	具体的な水分・食事摂取量が記録され、栄養バランスやカロリーについてもおおよそ把握され、栄養士・医師の指導・アドバイスも受けて支援されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が居間に集い、和室に横になったり、椅子やテーブルで一人になったり利用者同士談笑している。居間からは留萌駅や山々の景色が眺められ季節感が感じられる。また、気になる臭いや空気のよどみは感じられない。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、使い慣れたベッドやタンスなどの家具が持ち込まれ安心して過ごせる場となっている。家族の写真や趣味の塗り絵が飾られ一人ひとりの思いが伝わる空間作りとなっている。		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。